

小鳥も金魚も 車内持込が自由

釣魚に遺骨や火薬類も 豊崎平驛長語る

問題になつた小鳥類の列車内持込については、鐵道省において旅客の便宜を第一の目的とし更に同乗客の迷惑にならない程度といふ目安を置いて

種々考究の結果、今般小鳥の列車内持込みを許可すると共に左の品種に對しては従來の制を破り旅客の列車内持込みを許すといふ頗る寛大なとして時宜に適切な態度を取ることに成り近々達示によつて即日からは實施するといふ段取りになつた。即ち小鳥類の如きもあまり容積の大きくない旅客附隨

手荷物として適當と認めらるやうな籠の中を生箱の中に入れて持込むことが出来るがなるべく水や餌をばねばし車内を汚したる同乗者に迷惑を及ぼさぬ態度に風呂敷でも包めば結構である

獵銃用の火薬の如きも火薬法規に觸れない程度二百以内のものを持ち込んでんでも差支へなく又從來愛釣家の苦痛とした釣魚の如きも適當の包装を行ひ少量のものに限り持ち込める。金魚のやうなものも瓶に入れて泳がしたまゝ持ち込んでてもよくなる従つて鈴虫松虫のやうな

職業紹介

去月中の成績

平町職業紹介所十月中の取扱人員は求職五千六人であつて内四十四人に就職口を紹介し前月に比較する時は求職十二人、就職十七人の増加を示して居る

平町の

菊花一等賞

昨日審査を了した平町の千



家庭の冠

さんまのユズ煮

さんま二本うろこと頭を取り三枚におろし薄身をどつて置きます。次に大根を三寸位に輪切りにしかつらむき(帯の様に薄くむく)に

俺達を馬鹿にするなど 好間炭礦の失業者騒ぐ

従業員大會を開いて 對策を凝らす事に決定

石城郡好間村古河炭礦業所元山が去月三十一日突如休業を宣すると同時に會社當局では湊谷經理課長始め奔走の結果全従業員三百四十名を失業せざる各坑に按配すると聲明しておきながら未だにその手筈に至らず寒さに向つて失業者のむれはウヨウヨしてゐる現状だが財界不況の今日緊縮方針を取つてゐる各炭礦では労働者を激増するところなく

無智な労働者を僞購するも甚だしい。六日本坑夫組合本部執行委員關家博氏來山同方部各支部幹部と協議の上従業員大會を開いて對策を凝らすことになつたが平署では萬一を慮り署員を派遣し嚴重警戒中である

体操實地指導 平町第一第二小學校では本日本縣學務視學員福島師範學校教諭體操科主任佐川永三郎

十圓宛十ヶ年間 平小學校へ寄附

奇篤な薄葉かれさん 三圓を資本に廿年の勤勞

平町新川町の薄葉かれ(五)さんは此程左の如き手紙に拾圓を添ひて伏見町長宛小學校基本財産へ寄附を申込んだが此奇篤なかれさんは一体どう云ふ婦人であるかを調べて見ると現在では夫己之松さんとの間に孝一(一)ヨシ子(一)嘉廣(一)の二男一女あり至極圓滿な家庭を造つてゐるが夫妻が三十年前三圓の資金を携へて平窪村から平町に移つた當時は毎日附近の炭礦へ野菜などを背負つては商

へに行き十五年も之れを續け漸く幾分の資金を得る事が出来たので現在の煎餅製造業を営む様になつたのであると言ふが揃ひも揃つた働き手で稼ぐ事は何よりの樂みとし

勤儉貯蓄をして來たのであると云ふ、そなたのその貯へて行く金も何か社會の爲めに幾分かを差出し度いとの信念から僅ばかりではあるが去る大正十四年から之れを續け十ヶ年間實行する計畫をやつて

しごつとゆで水氣を切つて擴げその上に大根の長さだけにしんまを切つて載せ更にその上に細く切つたユズを載せてくるくくと巻き鍋に入れ適宜の水と砂糖十匁を入れ落しおたをしてゆつくり煮ます煮えたら醬油三匁位入れ色がついた頃器に盛り煮汁をかけて出します

新築實現か

平町では本日午前十時から町役場新築委員會を開き新築に伴ふ財源及び廳舎の設計其他に關し協議を爲した。右計畫は明年度豫算に計上され實現するに至るであらう

藤田學報發行 平町田町藤田女學校にては校友會並びに同窓會の機關として『藤田學報』を發行する筈にて目下印刷中の由

今年の新色 糸毛の裏は色

さむさに向ふ時先づしたじまるゝの糸毛の製品があらまます。

シヨール、セーター帽子手袋等ふくよかで暖かい點において又經濟な點で糸毛のそれが欲しいと思はれます今年新しい糸毛の流行りとしては、からみが一般によくばれるやうになつた事

であり、即ち

一三種 の糸をより合したものです、これは近代人の好みとして單色の毛色よりも複雑な感じのもののが歡迎される關係上かは色を二三種取り合せて配ります。たとへば藤色にピンクを配したもの、茶に白と黒の二色を配したもの、緑を主として

黄と赤 を配し又うすい藤色に水色をより合したものと水色に赤と緑を配したもの、茶、緑、赤、黒を等分により合せたものなどが極めて複雑な色調のものが新らしく輸入されて一般によ

るこばれて居ります。これ等複雑な色合ひの糸毛ではセーターだとか子供の帽子に編むと大へん好ましい感じのものが出て來ます。單色の糸毛としては、昨年流行の色として、淺黄が新しい色として現れました。今年のは裏緑色即ち緑色の濃い調子のもものが流行りなます色の感じとしては最近生々しくあくごいものは全くなくなり、また近頃は みんな含蓄のある好ましいものとなりました。からみ糸の値段はピーハイヴで三圓七十錢位から三圓九十錢位のところであり、(鶴屋洋品店調)

秋會支部主催菊花品評會の一等入賞者左記の如くである

櫻美人 齊藤萬藏、芙蓉殿 矢内忠、新大御代島田藤吉、羽衣の舞 松本磯右衛門、金鳳の舞 野木文彌、足引山 酒井政之助、千丈の瀧 渡邊重彌、紅葉光白 木種吉、初秋夢 酒井猶次、千里の霞 酒井喜代正、紫霞殿 村上辯治、寒夜 藤内藤昌、養老の瀧 青木榮吉、秋光 海老根淺吉、初

陣吉田由松、光雲 鈴木勝藏、歡聲 藤田榮太郎、同涌井兼作、故郷の春 大島與作、誰の舟 加藤康、光玉殿 遠藤林松、高愛 根本幸次郎、平和 大竹久太郎、八重 山田忠太郎、千丈 瀧本新男、可錦 大島福太郎、大鳳 渡邊喜重、秀輝 齊藤市太郎、時綾 小管熊吉、輪峯 熊田勝藏、紅葉 山内藤博次、黄金 錦渡邊貫一、怪光 小松半作、壽命 司小森七藏、祝紹 久保田榮三

ゐるとの由、拜啓秋冷の候御校益々御隆盛の段奉賀候、就而私事例年の通り勤儉節約仕候金十圓程積金致し候に付御校基本金へ御編入被下度御願申上候學校の爲め子供達の爲めと存じ候へば朝は三時より九時迄の勞働にも左程疲れも感せず寧ろ何事にも精出でて其勞働が恰も樂園にあるかの様な気分にて有之候自信と信念のもとに働く私年齢五十の坂も越じつ仲に若者に負けじと働き居候今後共貯蓄致し密附仕るべく候間何卒子供達にも宜敷御傳ひ被下度御願申上候先づは亂筆にて如斯に御座候十一月七日 薄葉かれ